カンボジアの生活事情

岡山県カンボジアビジネスサポートデスク（I-GLOCAL）

1. カンボジアのハードル

カンボジア進出の決断を迫られた企業が最初に遭遇する問題は、駐在員がカンボジアで生活できるか否かということであろう。最近は賃金の高騰により、中国・タイ・ベトナム等の工場をカンボジアに移転する企業が多いが、中国の香港や上海、タイのバンコク、ベトナムのホーチミン等に比べると、カンボジアの首都であるプノンペンといえども生活できるかどうか一抹の不安に駆られる。本稿では、カンボジアに初めて滞在する駐在員を想定し、カンボジアで生活する際の現在の状況を簡単にご紹介していきたい。結論としては独身男性・女性が滞在する分にはその他の東南アジアの都市と比べてもそれほど際立った問題は発生しないが、家族、特に小さい子供と共に住む場合には、まだまだ生活環境が整っているとは言い難いというのが現実である（本稿では多くの駐在員が住んでいるプノンペンにおける生活を想定している）。

2. カンボジアにおける住居

2.1 ホテル

出張ベースでカンボジアを訪れる際には、ホテルに滞在する機会が多いと思われる。プノンペンに関してはホテルの種類は非常に充実しており、30 ドル以下のミニホテルから 50 ドル程度の中級ホテル、100 ドルを超える 4 つ星、5 つ星のホテルが存在する。プノンペンの街並み自体はコンパクトにまとまっているため、どのホテルに宿泊しても移動に関してはそれほど困らない。

2.2 アパートメント

1ヶ月の滞在日数が 2 週間を超えてくるとホテルに宿泊するよりも、アパートメントを賃借した方が割安になってくる。アパートの相場は安い所では月 200 ドル程度から、サービスアパートメントやコンドミニアムとなると月 500 ドル～3,000 ドル程度と、その相場も大きく変化する。相場を決めるのは、立地条件や部屋の大きさに加えて、セキュリティ、清掃、洗濯といったサービスがどの程度含まれているかにもよる。家具は付いていることが多いが、大家と交渉することで追加の家具を備え付けてもらうことも可能である。

プノンペンの特徴として、オフィスや高層ビルが建つ区域と雑然とした下町の区域が明確に分離していないため、プノンペンタワーやカナディアンタワーのようなビジネスセンターの近くでも格安物件（月 300 ドル前後）が存在することが挙げら

れる。

住居を決める際の注意点は、数え上げればきりがないが、特に会社負担で住居を賃借する場合は、大家が賃貸借に関する証憑を確実に発行できるかどうか、また賃貸借の際に発生する税金を借り手と貸し手のどちらが負担するか事前に確認する事をお勧めする。

3. カンボジア市街における移動手段

3.1 バイクタクシー、トゥクトゥク（バイクの後部に客車部を連結させたもの）

カンボジアではバスや鉄道のような公共の移動手段は発達していないため、庶民の足となるのはバイクタクシーかトゥクトゥクである。多くの企業ではバイクタクシーに乗ることを禁止しているが（カンボジアではバイクに乗る際のヘルメット着用率が極めて低い）、トゥクトゥクに関してはどこにでもあるという利便性から日常的な足として使用される。価格の表示はなく基本的には交渉となるが、プノンペン市内の片道の移動であれば 1 ドル～3 ドル程度である。

3.2 タクシー

カンボジアではタクシーが非常に少ない。タクシー会社としてはグローバルメータータクシーとチョイスタクシーという 2 社が代表的だが、まだ合計 200 台程度（2012 年 7 月現在）しか台数がなく、走っているタクシーを捕まえるのはほとんど不可能なため、電話でタクシーを呼ぶのが一般的である（10 分～20 分程度の待ち時間）。ただ雨季の大雨の際には多くの人がタクシーを呼ぶため 30 分以上待ってもタクシーが来ないことが多い。

タクシーの利点は、メーターが付いているため支払額が明瞭であり、領収書を発行するため会社の経費として計算しやすいことである。

3.3 カーリース

上記のように移動に関しては決して便利とはいえない状況のため、企業が駐在員用の乗用車をリースするのが一般的である。価格は運転手付きで月 700 ドルからが相場である。

4. カンボジアにおける物品購入

4.1 市場、個人商店

東南アジアでよく見かける市場、個人商店はカンボジアでも多く見かけられる。しかし、言語の問題や衛生面で駐在員が市場や個人商店で物品を購入する機会は少ないと思われる。

4.2　スーパーマーケット

プノンペンにある代表的なスーパーマーケットとしてはラッキーマーケットが挙げられる。カンボジアは輸入障壁がそれほど高くないため、近隣諸国（中国、タイ、ベトナム）からの輸入品が数多く揃えられており、その種類は充実している。日本の商品が販売されていることも多く、プノンペンに滞在する限り物品面で不足を感じることはほとんどないと思われる。

スーパーマーケットの物品に関しては、外国人及びある程度の富裕層をターゲットにしているため特別安価なわけではない。

4.3　コンビニエンスストア（以下コンビニ）

カンボジアには数多くのコンビニが存在する。その多くはガソリンスタンドに併設されており、コンビニ内にはコーヒー・軽食を販売するカフェが入っていることもある。多くのコンビニは 22 時、23 時に閉まるが中には 24 時間営業しているものもある。

品揃えは決して豊富とは言えないが、日常雑貨、飲み物、菓子、インスタントラーメンといったコンビニの代表的な商品は揃っており、店舗数も相当数あるため使い勝手が良い。

5.　カンボジアにおける外食

プノンペンでは外食産業が発達しており、カンボジア料理、近隣の東南アジア諸国の料理だけでなく、イタリアンやフレンチ、スペイン料理、またブラジル料理等の変わり種の店もある。もちろん和食レストランも数多く存在しており、様々な店に足を運ぶことを楽しみとしている駐在員も多い。

カンボジアの食事情に関しては別稿にて詳細をお伝えしたい。

6.　カンボジアにおける子育て及び娯楽

カンボジアで子育てを行う上で最も大きなハードルは、現地に日本人学校が存在しないことである。インターナショナルスクールは存在するため英語教育は可能であるが、小学生等の子供がいる場合、どうしても日本に家族を残し、単身赴任される駐在員が多い。

また、娯楽に関しては近隣のホーチミンやバンコクと比べると非常に少ない。プールやジム、また日本人同士のゴルフ、テニス、フットサルのサークルも存在するが、1 年以上長期滞在する駐在員の配偶者にとっては充実しているとは言い難い。

7.　おわりに

本稿ではカンボジアの生活事情の概観を紹介した。基本的な物品に関しては不足す

ることがなく、たまの休日にはサークルやジム等で汗を流し、友人達と一杯飲みに行く、カンボジアでもそうした生活は可能である。しかし、夜間の道は暗く、交通マナーもいいとは言えない状況の中、家族と共にカンボジアに住むことにはどうしても一定のハードルが存在する。

カンボジア日本人商工会の登録企業もこの 1、2 年で倍増し 100 社程度となり、さらに日本人の滞在者増加が見込まれる中、日本人学校の設立をはじめ、駐在員の家族にも住みやすい環境が徐々に整うことを期待している。